

1. 第3回パリMOU・東京MOU合同閣僚会議

- (1) 会期：平成29年5月3日（水）及び4日（木）（現地時間）
- (2) 場所：カナダ・バンクーバー バンクーバーコンベンションセンター
- (3) 主催国：カナダ
- (4) 参加者：約141名 42カ国（地域）及び14の国際機関・団体
日本からは大野国土交通大臣政務官、大坪大臣官房技術審議官他が参加
- (5) 会議の概要

＜各国閣僚・首席代表によるプレゼンテーション＞

日本から大野国土交通大臣政務官が、サブスタンダード船の排除に向けて、旗国による自国籍船の安全の確保、貨物の安全の確保、PSC検査官に対する研修訓練プログラムの継続と強化等を主張。我が国の船員教育、特に帆船を用いた航海訓練の重要性について紹介。

＜閣僚宣言の採択、署名＞

「責任ある持続可能な海運の保護（Safeguarding Responsible and Sustainable Shipping）」と題する閣僚宣言を採択・署名。

宣言の概要は以下のとおり。

サブスタンダード船の排除に向けて、次のような具体的行動を協調して行う

- ① 旗国による自国籍船の安全確保を促すようPSCを強化する
- ② 特殊なリスクのある貨物に起因する事故を防ぐための対策を検討する
- ③ PSC官に対する地域内訓練プログラムを継続し、教育訓練に関する協力等を拡大する
- ④ 関係条約を批准するよう加盟国を促す
- ⑤ 船員教育に反映させるためPSC結果の分析を行う
- ⑥ サブスタンダード船を排除するために、寄港国のPSC体制を強化し、両MOUのコミュニケーション及び協力を強化する
- ⑦ 海運に関係する全ての者が「責任ある持続可能な海運の保護」に向けて共に協力し、作業する



参加閣僚等による集合写真



会議でのスピーチ

2. 国際海事機関（IMO）事務局長との会談

大野国土交通大臣政務官は、キータック・リムIMO事務局長と会談を行い、サブスタンダード船排除のためのPSCの重要性を強調するとともに、船員教育の重要性について述べ、「海王丸」の見学会参加を要請。海事における課題解決のため、我が国の知見・経験・人材を活用して、IMOの活動に積極的に貢献する旨を発言。

キータック・リムIMO事務局長からは意見に賛同するとともに、IMOに対する日本の多大な貢献に感謝の意が示され、今後の協力強化につき両者が合意。



キータック・リムIMO事務局長との会談

3. 「海王丸」の見学会

日本国政府とカナダ政府との共催で、バンクーバーに隣接するリッチモンド港に寄港中の独立行政法人海技教育機構の練習帆船「海王丸」の見学会を開催。IMO事務局長含む約100名が「海王丸」を見学。

日本の船員教育訓練と帆船教育の説明に続き、本船乗組員による船内案内、そしてデッキ上でレセプションを開催。



IMO事務局長を船内案内



参加者による集合写真

(参 考)

1. 「PSC」(ポートステートコントロール：Port State Control)

旗国は、自国籍船が国際条約の基準に適合していることを確認する義務がある。しかしながら実際には、サブスタンダード船(基準に適合していない船舶)が存在しており、国際的にこうした船舶の排除が重要な課題となっている。本来は旗国が果たすべき役割を補完するため、寄港国の権利として、自国に入港する外国船舶への立入検査がIMO(国際海事機関)の条約等により認められている。

2. 「MOU」(エムオーユー：Memorandum of Understanding)

PSCの効果を上げるためには、周辺諸国との情報共有などの協力が不可欠であり、そのために各国の海事当局が結んだ覚書。MOU参加国は、過去の基準不適合船に関する情報共有や、PSC官の研修訓練等を共同で実施している。